

# 第1学年 国語科学習指導案

時間・場所 2校時 1年1組教室  
 学 級 1年1組31名(男子17名女子14名)  
 指 導 者 小田嶋 香織

- 1 単元名 本をえらんでよもう  
 学習材名 中心学習材 「ずうっと、ずっと、大すきだよ」(光村図書1年下)  
 補助学習材 「ぼくたちまたなかよしさ!」「そんなのずるいよ!タイロン」「どろんこハリー」ほか

## 2 単元について

児童はこれまでに、「はなのみち」と「おおきなかぶ」において、音読と動作化を多く取り入れながら登場人物の行動や会話を基に想像を広げる学習を行ってきた。そして、「ゆうやけ」では、登場人物の行動や会話と自分の経験とを結び付けて読む学習を行ってきた。これらの学習を通して、登場人物の行動や会話に基づいて読む力が少しずつ育ってきた。さらに、「くじらぐも」では、吹き出しを付けながら場面の様子を想像し、大好きな場面を見付ける活動を行った。この学習を通して児童は、登場人物の行動や会話を基に場面の様子や気持ちを想像を広げながら読み、大好きな場面やその理由を考えることを経験している。

中心学習材「ずうっと、ずっと、大すきだよ」は、身近な動物である犬と少年との交流が描かれている。これまでの作品に比べ長い物語であり、読書経験の少ない児童にとっては抵抗が大きくなることが予想される。一方で、一人称視点で語られている特徴もあり、愛犬エルフを親友として愛し、死に至るまで慈しみ続ける「ぼく」の心優しさに共感しながら読み進めることができる。「ぼく」に自分を重ねながら心惹かれた場面を見付けるのに適した作品である。

本単元の構成にあたっては、本の紹介カード(以下、「おはなしの木」)で紹介するという言語活動を設定し、みんなの「おはなしの木」を集めて「おはなしの森」を作ることにより、互いの大好きな本を交流しながら、自分のお気に入りの本を増やしていくことを目的として学習を進めていきたい。指導にあたっては、大好きなところを見付けるために、登場人物の行動や会話、挿絵から、場面の様子について十分想像を広げさせながら読ませていきたい。その際、児童が大好きなところを見付けるために、ストーリー全体を何度も何度も通読する学習を展開していきたい。その際、下記の指導を行いながら、児童に想像する楽しさと本の楽しさを十分味わわせるように展開していきたい。

- ・お気に入りの本を選ぶ時間を保障するために、並行読書を行う。
- ・挿絵から想像を広げるための吹き出しシートを活用し、場面の様子を十分に想像させる。
- ・何度も何度もストーリー全体を読み返し、大好きなところに付箋(大好きな理由)を貼らせていく。
- ・「ずうっと、ずっと、大すきだよ」の学びをお気に入りの本でそのまま活用できるよう、第二次と第三次で同一の学習過程を展開する。

## 3 単元の指導目標

- 本を紹介し合うことに興味をもち、読みたい本を選んで、大好きなところを見付けながら楽しんで読もうとする。(国語への関心・意欲・態度)
- 登場人物の行動を中心に、場面の様子を想像を広げながら読むことができる。(C読むこと ウ)
- 友達に紹介するために、自分で本を選び、お話の大好きなところを見付けることができる。(C読むこと カ)
- 自分が見付けたお話の大好きなところを、紹介することができる。(C読むこと オ)
- 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。(伝国イ(ア))

## 4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・態度
○本を紹介することに興味をもち、読みたい本を選んで、大好きなところを見つけながら、楽しんで読もうとしている。	○登場人物の行動に着目し、場面の様子について想像を広げながら読んでいる。(ウ) ○自分で本を選び、友達に紹介するために、お話の大好きなところを見つけている。(カ) ○お話の大好きなところを友達に紹介している。(オ)	○自分の好きを表現するために、必要な語句を考えたり、語彙表から選んだりしている。イ(ア)

## 5 学習計画(全9時間)

- 「おはなしの木」カードのモデルを見て、学習課題を設定し、学習の見通しをもつことができる。(2)
- 「ずうっと、ずっと、大すきだよ」を場面の様子を想像しながら読み、好きな場面を選ぶことができる。……………(2)
- 「おはなしの木」カードの書き方を確かめ、「ずうっと、ずっと、大すきだよ」について書くことができる。……………(1)
- 補助学習材の本の中から1冊選んで再読し、好きな場面を選ぶことができる。……………(2)
- 自分が選んだ本についての「おはなしの木」カードを書くことができる。……………(本時1/1)
- 各自が書いた「おはなしの木」カードを交流し、次に読みたい本を決めることができる。……………(1)

## 6 本時の指導（8／9）

### （1）ねらい

自分が選んだ本についての「おはなしの木」カードを書き、交流することができる。

### （2）展開

学 習 活 動	学 習 内 容	指導のための工夫・評価
<p>☐1 前時の学習を想起する。</p> <p>☐2 学習課題を確認する。</p>	<p>○自分の選んだ本の一番好きなところを選んだことを想起すること。</p> <p>○「おはなしの木」カードを書くことを確認すること。</p>	<p>◇壁掲示で学習計画を掲示しておき、本時がどこなのかを明確に示す。☐（視覚化）</p> <p>◇前時に選んだ一番好きな場面に付箋をつけた本を各自に用意させておく。</p>
<p>じぶんがえらんだ本のことを「おはなしの木」カードにかいて、しょうかいしよう。</p>		
<p>3 「おはなしの木」カードに書くことを確かめる。</p> <p>☐4 自分が選んだ本について「おはなしの木」カードに書く。</p> <p>☐5 書いたカードをどのように交流し合うか、全体で確かめる。</p> <p>☐6 ペアで自分の選んだ本の好きな場面を見せ合いながら交流する。</p>	<p>○前々時に「ずうっと、ずっと、大すきだよ」で書いたことを想起しながら、カードに書くことを確かめること。</p> <p>○自分が選んだ本について、「題名」「登場人物」「自分が一番好きなところ」をカードに書くこと。</p> <p>○全体の中で、モデルの児童がするのを見て、ペアでの交流の仕方を確認すること。</p> <p>○自分の選んだ本の一番好きな場面を友達に紹介したり、友達の好きな場面を聞いたりして交流すること。</p>	<p>◇前々時に書いたカードを使って「題名」「登場人物」「自分が一番好きなところ」を書くことを確かめるようにする。</p> <p>◇「自分が一番好きなところ」は、「<u>だが、何を</u>するところが、一番好きです。」という文型を示して、どの子も書くことができるようにする。</p> <p>◇自分の一番好きな場面のページを開いて、それを見せながら「○○という本です。○○が出てきます。～が一番好きです。」という話型を示し、ペアでの交流の仕方のイメージをもたせる。</p> <p>◇ペアで紹介し合ったら、班の中でペアを交換して、再度紹介し合うようにする。</p>
<p>＜評価＞</p> <p>自分が見付けたお話の大好きなところを友達に紹介することができる。（読むこと カ）</p> <p>本を紹介するときに必要な言葉を理解して、カードを書くことができる。（言イ(ア)）</p> <p>＜評価方法＞</p> <p>・交流の様子 ・カード</p>		
<p>☐7 本時の学習を振り返る。</p> <p>8 次時の学習について確認する。</p>	<p>○本時、できたこと・分かったこと・交流で学んだことなど、学習を振り返ること。</p> <p>○次時の学習内容を確認し、意欲をもつこと。</p>	<p>◇交流してよかったことを出し合えるようにする。</p> <p>◇次時は、友達の紹介を聞いて思ったことを書いてはったり、次に読みたい本を決めて読んだりする学習を行うことを確認する。</p>

